

森永乳業の育児ニュース『エンゼル 110 番レポート第 83 号』

「ここが困った！子連れ外出事情」

———— ママ 100 人に聞きました ————

森永乳業は、時代とともに変化する母親像の理解に役立つことを願い、1993年4月から「エンゼル 110 番レポート」を発行しております。このレポートでは、育児相談窓口「エンゼル 110 番」*への相談内容から、育児に関する傾向についてまとめています。

* エンゼル 110 番とは

「子育て奮闘中のお母さんたちのお役に立ちたい」という思いから、1975年5月に開設した育児相談窓口で、2019年5月に45年目を迎えました。

「エンゼル 110 番レポート 第 83 号」では、1999年の「子連れのお母さんが見た街づくり」(第 25 号)、2009年の「ここが困った！子連れ外出事情」(第 56 号)と同様に、「子連れ外出事情」をテーマに、電話によるアンケート調査を実施しました。過去二回の結果からは、施設面の不備や街の中のさまざまな障害のために、ママたちの行動範囲が狭められている状況がうかがえました。前回の調査から 10 年。ママたちにとって、街は子育てにやさしくなっているのでしょうか？最近の子連れ外出をとりまく状況をリサーチしました。

【主な調査結果】

- 車の利用は約 25%減っていたが、子連れ外出するときの主な交通手段は前回同様に「車」や「徒歩」が多数を占めており、依然として交通機関は利用しにくい。
- 施設によつての格差は大きいものの、子連れ外出をサポートする設備やサービスが充実する施設も増えてきている。
- 授乳場所やおむつ替えスペースなどの情報は事前に調べて、使いやすいところを外出先に選んでるママもいる。

◇エンゼル 110 番 電話相談運営概要◇

相談対象 妊娠中～小学校就学前まで
相談員数 21 名(保健師、管理栄養士、心理相談員など)
ウェブサイト <http://www.angel110.jp/>

エンゼル 110 番レポート 第 83 号

今回のテーマ「ここが困った！子連れ外出事情」

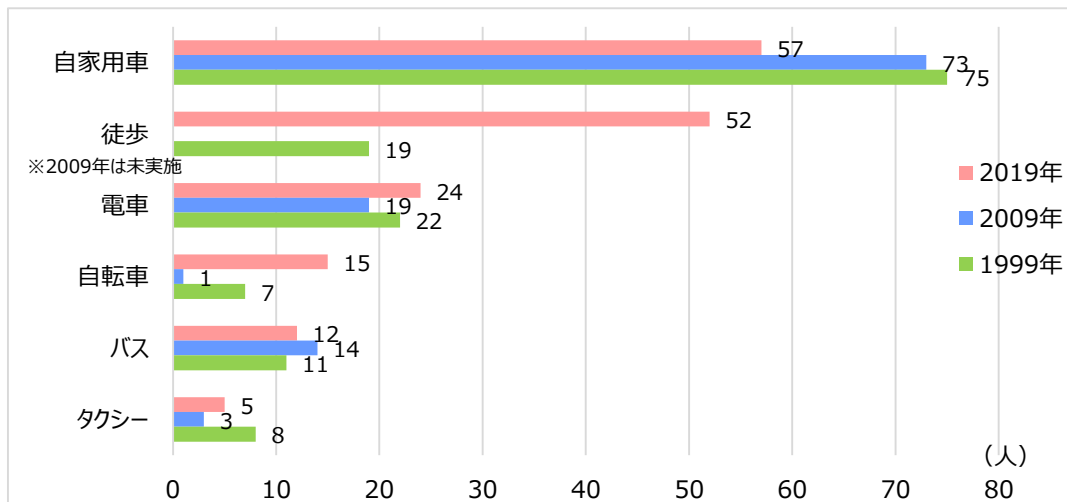
—ママ 100 人に聞きました—

「エンゼル 110 番レポート 第 83 号」では、1999 年の「子連れのお母さんが見た街づくり」(第 25 号)、2009 年の「ここが困った！子連れ外出事情」(第 56 号)と同様に、「子連れ外出事情」をテーマに、電話によるアンケート調査を実施しました。過去二回の結果からは、施設面の不備や街の中のさまざまな障害のために、ママたちの行動範囲が狭められている状況がうかがえました。前回の調査から 10 年。ママたちにとって、街は子育てにやさしくなっているのでしょうか？最近の子連れ外出をとりまく状況をリサーチしました。

移動手段は車と徒歩が約半数

最初に、子連れで外出するときの主な移動手段を聞いてみました。

図 1 外出時の主な移動手段は何ですか？(n=100 複数回答)



主な移動手段で最も多いのは「自家用車」で 100 人中 57 人でした。次いで「徒歩」が 52 人でした。「電車」24 人、「バス」14 人となっており、前回の調査結果に比べると、自家用車を利用する人の割合が少なくなり、新たに「自転車」を選ぶ人が増加傾向にあるようです。(図 1)

1999 年と今年の調査では「徒歩」についても聞いています。1999 年の調査では「徒歩」と答えたママは 19 人でしたが、今回は 52 人と約 2.7 倍に増えていました。抱っこ紐やベビーカーの進化も関係しているのかもしれませんが。

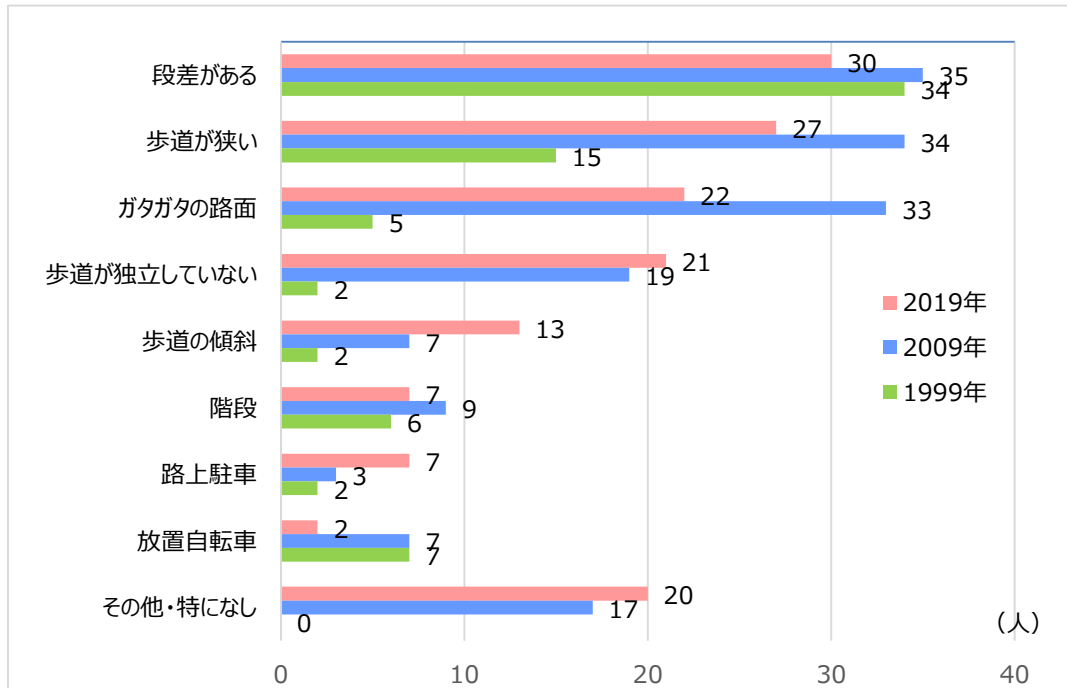
多くのママたちが、「子どもが車道に飛び出してしまうので、ママだけの時はベビーカーかお散歩ベルト」、「ベビーカーでぐずると困るので、ママ一人の時はほとんど抱っこ」、「バスや電車はパパがいる時だけ」というように、行き先、誰と行くか、子どもの状況などによって移動手段を選んでいく様子が見られました。また、「ぐずっても自家用車だと迷惑をかけない」、「泣いたら他の人から白い目でみられるがイヤ」と周囲を気にする声も聞かれました。

子連れ外出はやっぱり大変

子連れで外出したときに、不便を感じることを、「道路」「買い物場所」「交通機関」の3つの場面に分けて聞いてみました。(図2、4、5)

●道路

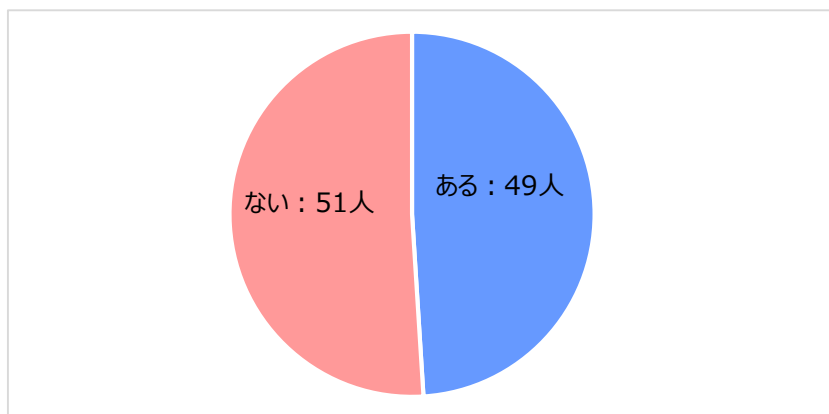
図2 外出時に不便を感じた場面「道路」編 (n=100 複数回答)



多くのママがあげたのが、「段差がある」(30人)「歩道が狭い」(27人)「ガタガタの路面」(22人)など、歩道や路面の状態に関するものでした。「路上駐車」や「放置自転車が歩道をふさいでいる」ことに不便を感じたという声もありました。ベビーカーを利用するママにとって、段差や地面の凹凸や歩道が狭いことは大きな障害になります。「その他」では「踏切」「工事が多い」などが挙げられました。

また、「走行中の自転車に危険を感じたことがあるか」をたずねたところ、約半数の49人が「ある」と回答しています。(図3)

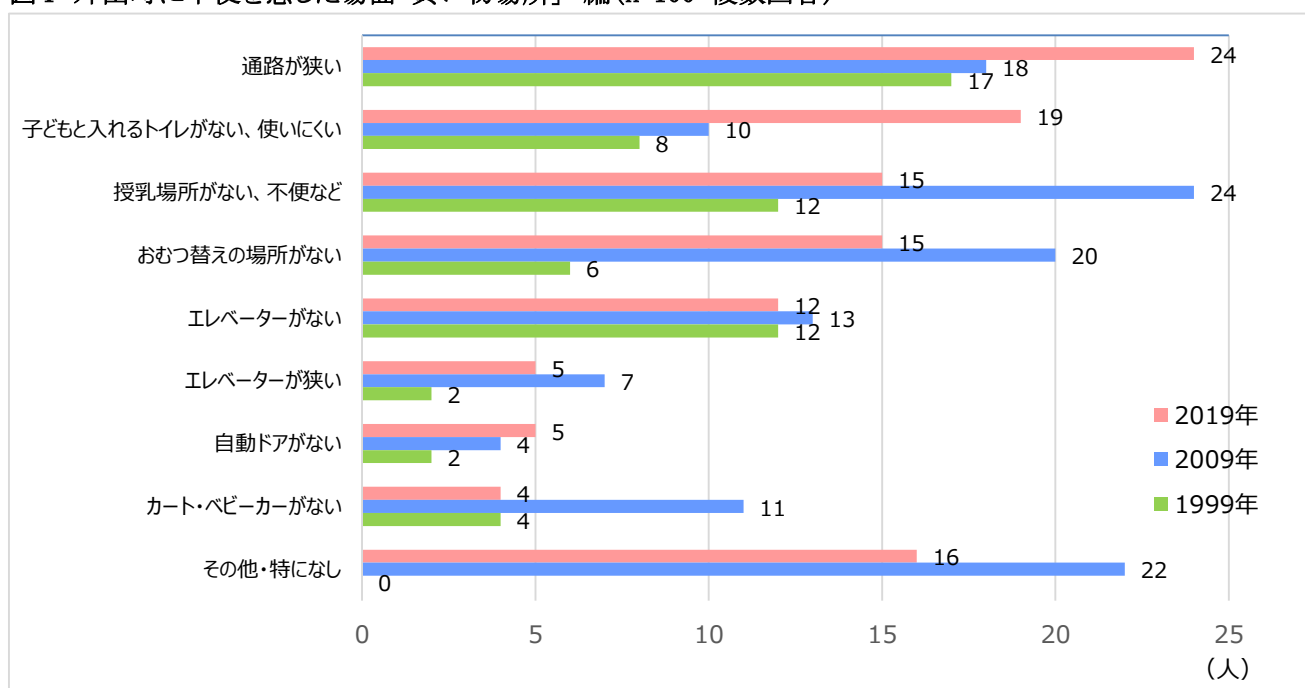
図3 走行中の自転車に危険を感じたことがありますか？ (n=100)



「商店街は狭いののに自転車がかなり通る、ベビーカーを使っているとひかれそうで怖い」、「赤ちゃんを抱っこして歩いていると、隣をスピード出して通り過ぎるので怖い」など、走行中の自転車に怖い思いをしているママたちがいました。さらに、外出に自転車を使っているママからは、自転車を運転している時に段差で転びそうになったり、人や他の自転車とすれ違う時などに危ないと感じている声が挙がりました。自転車に乗らないママも乗るママも、危険な場面に遭遇していることが多いようでした。

● 買い物場所

図4 外出時に不便を感じた場面「買い物場所」編(n=100 複数回答)



通路の幅やトイレの不便さは、前回、前々回の調査と比べても増えています。特にトイレは「子どもと入れるトイレがない」、「女性用トイレに男児用小便器がない」など、不便を感じているママが19人いました。

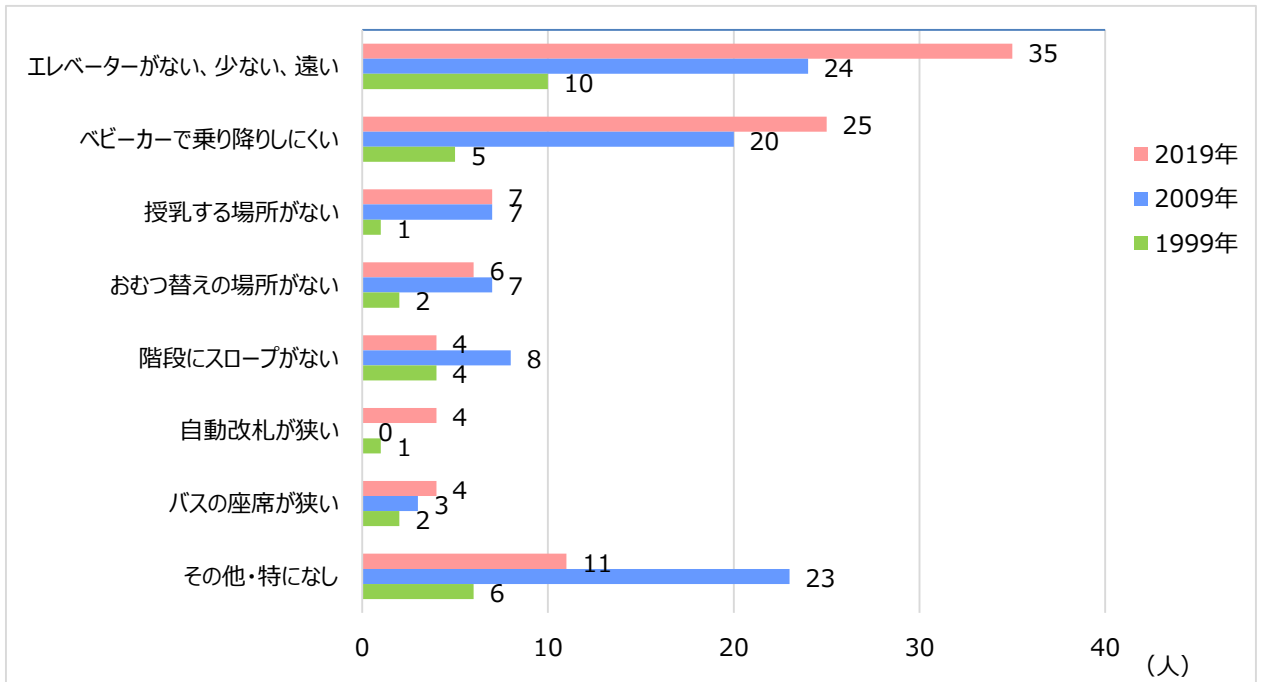
「その他」の中では「駐車スペースが狭い」「ベビーカーの出し入れに苦労する」など駐車スペースの問題を指摘する人が5人いました。

また、自由回答から、下調べ用のアプリの活用が明らかになりました。具体的には「事前に授乳室などはアプリで調べてから出かけるので不便は感じない」、「使い勝手のよいところを調べてそこばかり行く」などの声がありました。このように事前にリサーチできるアプリの普及などが、授乳室やおむつ替えの場所で困るという意見の減少につながっていると推察されます。

大型の施設や新しくできた施設は子連れを前提として作られているところも多く、授乳室やおむつ替えスペースなどは整備が進んできているようですが、それ以外の設備面は、もう少し改善の余地がありそうです。

●交通機関

図5 外出時に不便を感じた場面「交通機関」編 (n=100 複数回答)



交通機関では、「エレベーターがない、少ない、遠い」(35 人)、「ベビーカーで乗り降りしにくい」(25 人)の 2 つが上位にあげられており、増加が目立っています。これはベビーカーをたたまずに電車やバスに乗ることが一般的になってきたことが要因の一つかもしれません。

特にエレベーターについては、あっても使いづらい場合もあるようで、「エレベーターの表示がわかりにくい」、「譲ってくれない」といった声が聞かれました。

「授乳する場所がない」、「おむつ替えの場所がない」という声も一定数あるように、駅の施設はまだまだ使いづらい場合が多いようですが、一方で「スロープがあってありがたい。」「駅の中にベビースペースのあるところがあり、とても便利」というように、少しずつ改善されている様子もうかがわれました。

充実する大型商業施設

次に、子連れで外出したときに「便利だった」「よかった」と感じたことがあるかどうかについてたずねました。

回答からは、ショッピングモールや大型スーパーマーケットの授乳室やおむつ替えスペースなどの充実がうかがえました。「電子レンジや調乳器具がそろっている」、「授乳室やおむつ替えシートなどがたくさんあり助かった」、「給湯器が 72℃設定で使いやすい。使用済みのおむつを入れるポリ袋もあり便利」という声からは、サービスが行き届いた施設もあるようです。前述の外出時に不便を感じた買い物場所と比べると、充実度には施設間の格差があるようです。

また、「困ったときに『手伝いましょうか?』と声をかけてくれる人がいてうれしい」、「泣いたり困ったりした時、周りの人が色々声をかけてくれた」、「レジの人が買い物かごを運んでくれてありがたかった」のように、周囲の声掛けやちょっとした気遣いをうれしく感じる人も少なくありません。

求められるのは周囲の温かさと設備の使いやすさ

最後に、子連れで出かけやすい街であるための改善点をあげてもらったところ、「周囲の人の意識」と「設備」の2つに集約されました。

●周囲の人の意識

「子連れだと嫌がられる雰囲気になくなればよい」、「泣いたらにらみつけられて嫌な思いをした」、「ベビーカーが邪魔になっていないか気になる」といった声からは、常に周りの目を意識し、気を使いながら外出するママたちの姿が目につかびあがりました。

「人に助けられることもあるが、嫌な顔をされることもある、子育てへの理解が欲しい」、「ちょっとした気遣いをもっと増えたらよいと思う」という声もありました。周りの人のちょっとした気遣いがママの気持ちを楽しみ、外出を楽しむ余裕につながると考えられます。

また「ママから声をかけることで助けてもらえることもある。例えば、上の子をトイレに連れて行くとき、サービスセンターの人に頼めば赤ちゃんを預かってもらえる」という意見もありました。ママ自身が周囲の人に遠慮せずにヘルプを申し出でることも、周囲の人の行動を変えていく一歩になるのかもしれない。心のバリアを取り除くことも大切なのではないかと思います。

●設備

道路や設備については、さまざまな改善点がありそうですが、歩車分離され段差のない道路、使い勝手のよいトイレ、余裕のある駐車スペースを求める声が目立ちました。

また、授乳やおむつ替えの場所の整備は、大型施設や新設された場所では進んできているようですが、日常的に使う小規模施設にも広がるのが望まれています。

地域差や施設の差もあると思いますが、ママたちにとっての施設の利便性はまだまだ改善の余地があるようです。

さらに、設備はあっても場所がわかりにくかったり、使い勝手が悪かったりということも多く、わかりやすい表示や、清潔で気持ちよく使える配慮が必要なようです。

当事者の声を活かして

「子連れで行くところはそういう前提で作られているので授乳室や休憩室が完備しているが、ほかの施設も早くそうなってほしい」、「実際に子育てしているママたちも感じていることを発信することが必要」、「施設運営側にはママたちの声を吸収してほしい」と言った意見があるように、当事者でなければ分からないこともあります。当事者の声をどう拾い上げ、街づくりに活かしていくのか、引き続き、大きな課題と言えるでしょう。

そして、このような声は、高齢者や障がい者の方から街を見た時にも重なる部分が多いのではないのでしょうか。自由に移動できるということは、生活の質を高め豊かなものにするのに欠かせない条件です。

「子どもへの理解」はもちろんのこと、「誰もが動きやすい街づくり」が求められていることを、改めて確認した調査結果でした。

調査の概要

- 対象 : 「エンゼル 110 番」に電話をいただいた子育て中のママ 100 人
- 調査方法 : 電話による聞き取り調査
- 調査期間 : 平成 31 年 3 月 27 日～令和元年 7 月 3 日
- 対象者の属性 : 「母親の年齢」 20 代…13 人、30 代…77 人、40 代…2 人、不明…2 人
「母親の職業」 有職…40 人(育休中 25 人)、無職…57 人、不明…3 人
「子どもの年齢」 6 ヶ月未満…24 人、1 歳未満…28 人、1～2 歳代…37 人、3 歳以上…10 人、不明…1 人
「子どもの性別」 男の子…51 人、女の子…42 人、不明…7 人
「居住地」 首都圏…47 人、首都圏以外…47 人、不明…6 人

エンゼル110番レポートのバックナンバー

1993年4月	第1号『離乳食』
1993年7月	第2号『初めての泊りがけ旅行』
1993年10月	第3号『胎教』
1994年1月	第4号『お年玉』
1994年5月	第5号『夫の育児参加と妻の満足度』
1994年8月	第6号『妊娠中の食事について』
1994年11月	第7号『育児雑誌を読みますか』
1995年2月	第8号『早期教育は必要ですか』
1995年5月	第9号『赤ちゃんのアレルギー、気になりますか』
1995年8月	第10号『どんな出産をしましたか』
1995年10月	開設20周年記念冊子『60万件の電話相談から』
1996年11月	第11号『子育て費用をどう考えますか』
1996年2月	第12号『子どものことを夫婦で話し合っていますか』
1996年10月	第13号『赤ちゃんをだっこした経験ありましたか』
1996年12月	第14号『理想の父親像と母親像』
1997年4月	第15号『子育て中のお母さんの自由時間』
1997年6月	第16号『子どもを預けたことはありますか』
1997年9月	第17号『子育て中のストレス解消法』
1997年12月	第18号『かかりつけのお医者選び』
1998年4月	第19号『“格好いいお母さん”が当たり前？』
1998年6月	第20号『35歳からの子育て』
1998年9月	第21号『これからはママもパソコン使います』
1998年12月	第22号『35歳からの子育て パートⅡ』
1999年3月	第23号『実家とどうつきあっていますか』
1999年6月	第24号『子どものアレルギーについて』
1999年9月	第25号『子ども連れのお母さんが見た街作り』
1999年12月	第26号『子育てが楽しいと感じる時』
2000年3月	第27号『離乳食は得意ですか』
2000年6月	第28号『子育て仲間はどこで見つけましたか？』
2000年9月	第29号『子連れで海外旅行に行きましたか？』
2000年10月	開設25周年記念冊子『医療関係者向アドバイスブック』
2000年12月	第30号『私たちのミレニアム・ベビー』
2001年3月	第31号『ママたちのIT革命』

2001年6月	第32号『子どもが生まれて夫婦関係が変わりましたか？』
2001年9月	第33号『妊娠してからの食生活の変化』
2001年12月	第34号『絵本の読み聞かせをしていますか』
2002年3月	第35号『育児日記をつけていますか』
2002年6月	第36号『ママたちの再就職事情』
2002年9月	第37号『テレビやビデオをどのように見せていますか』
2003年1月	第38号『夫の育児参加と妻の満足度（その2）』
2003年4月	第39号『子育てにインターネットを活用していますか？』
2003年7月	第40号『子育てコストとママの生活満足度』
2003年12月	第41号『ママたちの育児スタート 一産後に望む支援サービス』
2004年4月	第42号『子育てママの喫煙・禁煙』
2004年9月	第43号『信頼できる育児の情報源とママたちの満足度』
2004年11月	第44号『ママたちの産院選びと立ち合い出産の実態』
2005年3月	第45号『妻の実家・夫の実家、どう付き合っていますか？』
2005年7月	第46号『赤ちゃんのアレルギー・気になりますか？』
2005年11月	第47号『赤ちゃんをだっこした経験ありましたか？』
2006年4月	第48号『子育てママの携帯電話活用法』
2006年7月	第49号『子ども連れて初めての泊りがけ旅行』
2006年11月	第50号『子どもは何人ほしい？』
2007年2月	第51号『子どもに習い事をさせますか？』
2007年8月	第52号『「3歳児神話」をしていますか？』
2008年1月	第53号『子どもを預けたことがありますか？（その2）』
2008年4月	第54号『「お母さんになったな」と初めて感じたのは？』
2008年9月	第55号『結婚前の料理経験はどれくらいですか？』
2009年1月	第56号『ここが困った！子連れ外出事情』
2009年5月	第57号『不況に負けない！ママの明るい節約術』
2009年9月	第58号『孫育て』
2009年11月	第59号『ママ友とのおつきあい、どうしていますか？』
2010年5月	第60号『夕食の献立どうやって考えていますか？』
2010年8月	第61号『子育てで支援で、本当にしてほしいことは？』
2010年11月	第62号『パパはイクメンですか？』
2011年2月	第63号『35年で変わったこと、変わらなかったこと』
2011年5月	第64号『育児日記をつけていますか？』
2011年9月	第65号『ママたちの節電対策』

2012年1月	第66号『今、大切にしたいもの』
2012年6月	第67号『育児で心配になったきっかけとその解決方法』
2012年11月	第68号『子育てママのお正月』
2013年3月	第69号『名づけ』
2014年4月	第70号『赤ちゃんを抱っこしたことはありましたか?』
2014年12月	第71号『母乳への意識』
2015年4月	第72号『現代のママ事情』
2015年7月	第73号『「食べない子」「食べすぎる子」のママの悩み』
2015年9月	第74号『子育てしやすい街の条件』
2015年11月	第75号『働くママの気持ちと職場の理解』
2016年6月	第76号『ママたちが活用しているアプリは?』
2017年1月	第77号『結婚前の料理経験はどのくらいですか?』
2017年7月	第78号『なぜ、今「電話相談」なのか』
2017年11月	第79号『ママたちのストレスとその解消法』
2018年3月	第80号『2017年 年間統計』
2018年8月	第81号『ママたちの育児スタートは?』
2019年2月	第82号『2018年 年間統計』